



資産運用こぼれ話 世の中の情報は多すぎる

寄稿： 岡本 和久

70年代後半から80年代前半の9年間、私は日本の証券会社のニューヨーク支店で働いていました。セールス・アナリストという仕事でしたが多くのファンド・マネジャーやアナリストと知り合いになり多くのことを学ばせてもらいました。その中でも特に記憶に残っているのが、あるアメリカ人のファンド・マネジャーからは「3ポイント法」という方法でした。



彼とは何度も日本に調査のための出張をしました。会社訪問を終えると必ず、「今のミーティングでもっとも重要な三つのポイントはなんだろう」と私に聞くのです。これを続けているうちに、これは非常に効果的な方法であることに気づきました。どんなミーティングでも、もっとも重要なポイントというのはだいたい三つぐらいにまとまるものです。やってみると、この方法は非常に幅広い分野で応用できることがすぐ分かります。会議でなくても、本を読んだとき、テレビの番組を観たとき、その内容を3ポイントにまとめておく。

アメリカ大統領のメディア・コンサルタントも務めたことのある人のトレーニング・セッションも受けたことがあります。彼からは「ミニマム2—マキシマム4」という方法を学びました。これはどうしても相手に伝えたい案件があるときには、それを最低二つ、最大四つ、つまり三つぐらいのポイントにまとめておく。そして面談や会議の席などで発言はすべてその三つぐらいのポイントに結び付けて話すというものでした。普通の会話の中で相手の印象に残るのはいいところ三つぐらいなのかもしれません。これは相手に何かを伝えたいときに非常に有効です。

「世の中の文字は小さすぎて、読めないっ！」という(私も愛用している)眼鏡型拡大鏡のコマーシャルが話題になりましたが、「世の中の情報は多すぎて、何が何だかわからない！」と思う方も多いでしょう。株式市場を取り巻く要因は無数にあります。しかも、それぞれが相互に関連しあっています。そのすべてを理解してマーケットのトレンドを予測しようというのはあまりに複雑で困難です。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

大切なことは、小さなたくさんのお出来事に右往左往するのではなく、それらを集約した三つぐらいの大きなトレンドの長期的な方向性を判断することです。理解すべきポイントが三つぐらいであればそんなに難しいことはありません。

長期分散投資は複雑にからみあった銘柄やマーケット相互間の関係をきわめてシンプルにする良い方法です。一つの企業の短期的な株価を判断するよりも世界株市場の長期的トレンドを判断した方がずっと楽なのです。長期分散投資は投資をすっきりとシンプルにしてくれる効果的な方法だと言えます。

(この原稿は投資手帖 2019年10月号に寄稿したものに加筆修正を加えたものです)